

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ(第11回)

議事要旨

平成19年4月23日(月)18:30~20:15

釧路地方合同庁舎4階 共用第3会議室

【出席者(敬称略)】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人(所属)>

- ・金子正美(酪農学園大学 助教授)
- ・清水信彦
- ・新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター)

<団体(出席者)>

- ・NPO法人釧路湿原やちの会(雑賀重二)
- ・釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会(杉山伸一)
- ・釧路武佐の森の会(大西英一)
- ・ボランティアネットワーク・チャレンジ隊(佐竹直子)

<関係市町村(出席者)>

- ・釧路市(池之谷美紀)

<関係行政機関(出席者)>

- ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所  
(所長/渋谷晃太郎、次長/櫻井洋一、国立公園・保全整備課/川淵義昭)
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部(治水課/能代靖己、中津隆文)
- ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター(白藤未人、中島章文)
- ・北海道釧路支庁(地域政策部環境生活課自然環境係/後藤達彦、大野美枝)
- ・北海道教育庁釧路教育局(社会教育指導班/岩崎撰也)

再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原自然保護官事務所(露木歩美)
- ・財団法人北海道環境財団(久保田学、内田しのぶ、山本泰志)

【議事概要】

事務局 第11回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WGと表記」)を開催する。

(資料確認後、新庄座長による進行。参加者の自己紹介を行う。)

**議事1 ワンダグリンド・プロジェクト2006報告について**

**議事2 ワンダグリンド・プロジェクト2007応募結果について**

座長 議事1、議事2について事務局からの説明を求める。

事務局(資料1、2に沿って説明)資料作成後、本日新たに1件の応募があり、「ワンダグリンド・プロジェクト2007」は34団体・58取組みでスタート予定である。

座長 ワンダグリンド・プロジェクト2006報告のまとめ方について意見があればお願いしたい。

委員 2006年度報告書の作成実績と、現在どれくらい残っているのか教えてほしい。

事務局 2006年度は1000部印刷し、WG事務局には残部30ほどである。

座長 ワンダグリンド・プロジェクトとは何かを説明するときに、この報告書が使える。ご活用を。

座長 2007年度に応募状況は事務局説明のとおり。テーマごとの状況をみると、湿原への関心喚起

を意図したものが多。

### 議事3 今後のスケジュールについて

座長 議事3について、事務局からの説明を求める。

事務局（資料3に沿って説明）今年度もワンダグリダ・プロジェクト 2006 報告書お披露目座談会を予定している。知名度アンケートも昨年に引き続き実施する予定である。

座長 今年は国立公園指定20周年であり、それを意識した取り組みも期待される。

委員 釧路湿原やちの会としては、昨日（4月22日）湿原道路の清掃活動を実施した。新聞報道にも取り上げられ、業者の参加もあり、清掃後は木道を一周して自然解説を行った。

委員 湿原道路の清掃活動には60名以上が参加し、中春別からの参加や、通りがかりの自転車の人の参加もあった。今回は湿原道路の歩道側を清掃したが、実は反対側も汚く、そちら側もやる必要があると考えている。

座長 当日集められたゴミはどのように処理したのか。

委員 業者の協力でゴミ処理車を出していただいた。

委員 私は普段札幌にいるのだが、札幌で自然再生の紹介をするようなイベントをやるならできると思う。5月に北海道環境サポートセンターでランドサット衛星写真を大きく伸ばしたものを展示する。その後、第2弾で「釧路湿原を歩く」といった展示も考えている。これまで協議会で作ったパンフレット等をそうした場で一堂に展示することなどもやってみたいと考えている。

委員 昨日の湿原道路の清掃活動の際、仮設トイレをひとつ設置した。国立公園内では仮設トイレを設置できないと聞いている。トイレ問題をあちこちで聞く。

### 議事4 環境教育について

座長 議事4について、事務局からの説明を求める。

事務局（資料4に沿って説明）前回第8回再生普及小委員会の中で、行動計画WGが環境教育の進め方について検討することとなった。ワンダグリダ・プロジェクトは市民向けの取り組みが中心だが、学校向けの環境教育の必要性が要請されており、これから改めて「（仮称）環境教育ワーキンググループ（以下「環境教育WG」と表記）」を設置し、環境教育に関する情報共有と推進方策の検討を行うこととし、まず、状況把握調査から着手したい。調査の結果次第だが、学校だけではなく、それ以外の場での環境教育推進も視野において考えたい。

座長 第8回再生普及小委員会の議論を受けて、新たにWGを設置し、そこでは主に学校教育に着目しようというもの。これについてご意見をいただきたい。

委員 教育局から依頼すれば、環境教育WGへの教員の参画は得られるかもしれないが、学校の現場は忙しく、長期間の参加は負担になり、簡単ではないかもしれない。また、釧路湿原というテーマで環境教育を特化して推奨することはできない。北海道でも環境教育指針を作成しており、教育局としてはそれが第一となってしまう。

座長 学校教育の方針は固まっており、新たに釧路湿原に特化して盛り込むのは困難であるという指摘である。

委員 子供たちの環境教育は学校だけではなく、社会教育もある。学校が週5日制となり、各市町村の社会教育の中での取り組みもあり、それもターゲットにしてはどうか。

委員 教育局の立場は苦しいのはわかる。ただ、いろいろな学校を非常勤講師で回ってみると、環境教育に熱心な学校がある。そうした学校の横の連携が不足している。例えば、私が現在受け

持っている釧路高専では学校ぐるみで環境教育に力を入れており、私は市の環境基本計画や釧路叢書の釧路湿原を教材に独自の講義内容を作り、5年間教えている。しかし難点はあるので、そうしたことを環境教育WGで話せるとよい。釧路商業高校のように学年ごと湿原に出かけ、湿原での案内や自然解説を釧路湿原やちの会で担当し、受け入れている例もある。そうした取り組みを支援するのも環境教育WGの役割だと思う。

委員 トイレのあり方検討会でも「湿原の利用のあり方」を考える必要性が指摘されてきた。トイレのあり方を検討し、報告書で立派なことを書いても、それを普及し働きかける取り組みが必要との議論があった。それができるのは自然再生協議会の中では再生普及小委員会しかない。ワンダグリンド・プロジェクトはやや受け身的に思えるが、次は自然再生協議会として湿原との接し方を考えていく取り組みを主体的に起こすべき。既存の組織は融通が利かないが、杉山先生のような動きや北海道標茶高校（高校生が小学生に環境教育を行うなどの取り組みがある）などの動きもあり、そうしたところに私たち自身が出て行って接し、これからを考えることは有意義なことと思う。

委員 環境教育WGの性格がやや不明確である。自然再生協議会はやりたいものが集まり、下部組織として小委員会や各WGがある。しかし、声をかけられ役所の看板を背負って出てこられる立場の方もいる。構成メンバーは、個人ベースでやりたい人が集まるようなWGであってほしいが、オフィシャルには難しいかもしれない。

委員 同感である。出るといわれれば出ることになるが…。

座長 できるだけ自発的なメンバーの参画が得られることが望ましいという意見である。

事務局 事務局側でも学校教育の現場についてわからないことも多々あり、社会教育も併せて取り組んだ方がいいということもわかる。そうしたことを含めて環境教育WGで相談できるとよい。

委員 環境教育WGの目的がはっきりしていることが必要だと思う。目的によって集まる人は違うのだから、そのWGは提案する場なのか、行動する団体の情報交換の場なのか、スタンスがはっきりしていることが重要。集まってから、集まった人たちで目的を決めるのは無理がある。

座長 では、どんな環境教育WGを作ることが必要かご意見をいただきたい。先ほど横のつながりをつくるネットワークを目的に、という意見があった。また、社会教育で展開されている環境教育を拾い出すことの必要性の指摘もあった。

委員 個人的には、小学校低学年から学校教育のなかできちんと環境教育を行っていくべきだと思う。

委員 環境教育に関する情報収集と共有は必要だと思う。どう活かすかはそれぞれに任せればよいと思う。

委員 38年間学校の現場にいたが、学校が一番動かない。行政は、関連行事への参加や取り組みを、学校に頼めば動いてくれると思っているが、そうではない。最近は、広く呼びかけるのではなく、個人への声かけをするようにしている。行政も人次第であり、この人ならば、という人を連れてくる必要がある。

座長 釧路湿原での環境教育の現状を把握することが必要ということか。

委員 釧路管内の小中高校で湿原学習の発表会をやらせれば、それがリトマス紙になり、どの学校が湿原に関するどんな学習を行っているかわかるだろう。

座長 環境教育WGを設立することについては了承ということでよいが。環境教育WGでなにをやるかについては、改めて諮るということではどうか。

委員 そうのんびりもしてられないのではないか。すでに環境教育の取り組みはあちこちで進んでおり、関係する主体間に情報共有のニーズはある。また、学校現場の状況がわかっていない

ことは、情報発信するときに困る。現場の先生方に負担をかけず、今行っている教科の中で取り組めるよう、学校にうまくつないでいくことが必要。受入れ側（学校）についての情報の共有、横のつながりを促進するような、ワンダグリンダ・プロジェクトの発展型のような場ができるとうい。学校側がそれを望んでいるかどうかはわからないが。

委員 学校側は望んでいる。それが全体に波及しがたいところがあるということか。

座長 現状把握、すでにある経験や情報の共有化、それぞれの分野の方々の状況を把握し、必要な情報を提供することなどが環境教育WGに必要とされている。

委員 学校教育がメインに話が進んでいるが、学校教育に絞っていくのか？

座長 学校教育に限らず、と考えていいのでは。

委員 社会教育はNPO等で動ける部分があるが、一番難しいのが学校教育だと思う。学校で自然再生に関わる環境教育をどれだけできるかが本来の目的だろう。

委員 学校、子供ももちろんだが、親の教育も必要。そこにも切り込んでほしい。

委員 対象別に考えてみてはどうか。子供に対しては学校、というように直結するが、組織の体質を変えることまで必要になってしまう。また、環境教育というと広すぎる。釧路湿原に絞った方がよい。

座長 その話題は、環境教育WGで検討すべき内容かと思う。

委員 設立する必要性と目的の柱は見えた。これから練り上げていけばよい。社会教育の話もでてくるが、学校教育を無視することはできない。先生たちの中にも研究会があるのだから、環境教育にも自発的なそうした仕組みがほしい。先生たちの研究会の代表がこうした議論の場に出てきてくれればよい。学校の先生に自主的に入ってもらう仕組みが必要であり、環境教育WGもそうした性格であってほしい。

座長 それではこれまでの議論より、行動計画WGからは再生普及小委員会に環境教育WGの設立を提案したい。現時点では内容を詰め切れていないが、目的をはっきりさせ、方針を再生普及小委員会に示す必要がある。自主的な参画を原則とするが、参加を期待する立場の方にはこちらから声をかける。環境教育WGでは、まずは環境教育の現状を調査して把握し、共有を図る。ここまでを再生普及小委員会に提案することでどうか。（異議なしの声あり）

座長 ではそのように進める。それでは、環境教育WGの事務局をどうするか。

事務局 環境教育WGの事務局についてだが、どこが事務局を担当してもおかしくないが、ご意見をいただきたい。腹案としては、行動計画WG同様、環境省で預からせていただきたい。（異議なしの声あり）

座長 では、そのように進めたい。

委員 行動計画WGと並立するということが。

座長 その通り。

事務局 以上をもって本日の行動計画WGを終了とする。

以上